

株式会社温泉道場執行役員と株式会社埼玉武蔵ヒートパアーズ、常務取締役執行役員を仰せついております松山と申します。本日は貴重な時間ちょうだしまして、ありがとうございます。

これからお話する内容なんですけども先ほどの埼玉県バスケットボール協会さんとまたちょっと違う視点というかですね、1 チームとして、今埼玉武蔵ヒートパアーズを、我々のグループの核となっております温泉道場が、3年前にご支援をさせていただいたところの経緯と、今までの活動内容だとか、事例だとか、ちょっと簡単に20分程度の短い間ですけども、ご紹介させていただければなというふうに思っております。

まず最初に、何でお風呂屋さん、我々温泉道場という名前なんですけど、なんでお風呂屋さんが球団を運営するのしてるの、みたいなところからですね、多分疑問の方がいらっしゃると思いますので、まずそこから、我々の会社ですね、ご説明の方からさせていただければと思います。

まずですね、我々の企業理念としまして地域になくてはならないリーダー、仕事、店を作る会社としまして、簡単に言いますと、やっぱり今、円安とかいような話がありますけども、非常にやっぱり国力、国の力が減退している中で、我々まだ小さい会社なんですけども、若者がリーダーを担う、経営者になる、国を引っ張るっていうような人材育成をしていかななくてはならないという、我々のオーナーの理念のもとで、こういった企業理念とオーナーの考えというところの中で、お風呂から文化を発信するっていうところの軸からですね、野球から文化を発信しようというところで、今から3年前に事業承継のお手伝いをさせていただいて、100%出資子会社として、株式会社埼玉武蔵ヒートパアーズという会社を立ち上げさせていただいたっていうのが、基点となっております。

温泉道場、うちの新卒だった子が、熊谷のお風呂 café ハレニワで5年前に書いてくれた絵なんですけども、この絵がですね実はですね、毎年ですね先導場内では社内ビジコンやっております、ビジコンで発表されたものを絵にして、これをですねしっかり具現化していこうということで、書いた絵になっております。ちょっと見づらいんですけども、いろいろ絵にはなってると思うんですけど一番わかりやすいのが、こういうふうにボールパークになっている、これが今日のお話の部分のメインテーマではあるんですけども、それ以外でも温泉を軸として、地域活性化として、こういったお寺の経営をさせてもらったりだとか、あとはビールをやらさせていただいたりとか、あとはもう実際に今稼動してるんですけども、パン屋さんとか、あとは今私が担当しているお風呂 café 白寿の湯というところでは、陸上養殖、後でもうちょっとお話ししてもらんですけども、こういった形で、ライフスタイルの提案からエンターテインメントまで地域に必要とされる企業を目指して、今取り組んでおる次第でございます。

今、会社としましては三つの会社を展開させていただいてまして、先ほどから申している通りで、温泉道場これは日帰りの温泉施設、を軸としてあとはコンサルティング等もやらさせていただいたりとか、あとは旅する温泉道場として、こちら三重のお風呂カフェ、湯守座ですね、こちらの方の運営、あとは旅行業もこちらの会社ではやらさせていただいております。

今日のメインで、埼玉武蔵ヒートパアーズ、当然のことながら野球の運営をさせていただいてるっていうような今三つの事業体で構成されているというのが弊社の状況でございます。

理念としてはこういった形でお風呂から文化を発信する、地域を沸かせということで、こういった理念から、社員の方の、あとはスタッフさん、パートさんにもしっかり浸透して、行くような格好で日々ですね、地域にどうやったら役に立つか、あとは、やっぱり同じ仲間たちを叱咤激励しながらですね、今結構コロナで、大変な時期があったんですけども、何とかこういったことをですね、提唱しつつですね、乗り越えることができたかなというふうに考えております。

社員構成としましてはこういった形で、大体グループとしたら500名ですね、社員が大体100名程度の今会社となっております。

私個人の自己紹介なんですけれども、私今埼玉、生まれ、川越育ち、今も川越に住んでおります。

ご縁があってですね、今、温泉道場と、あと埼玉武蔵ヒートベアーズを、運営の方に携わさせていただいてはいるんですけど、先ほどバスケの話もありましたけれども、実はうちの娘も息子もミニバス上がりでして、非常に何か懐かしい志木カップとか思い出しました。

あとですね、会社の取り組みとしましては、こういったですね学生からですね、社会人入りたての社員に、働きがいのあるランキングということで、どうやったらですね自分たちが輝けるフィールドを見出せるかみたいな格好で、いろいろこういった賞をいただいたりしております。

あとは女性活躍推進のウーマンズバリュートレーニング協会主催の特別賞をいただいたりとかをしておりますね。

あとは実際の企画としましては、埼玉県飯能市にあります、メッツアビレッジで、初めてですね、湖畔にですね、テントサウナを立てて、運営の方させていただいたりとか、あとは自社のアパレルですね。

これ去年から始めさせていただいてるんですけど、湯あがりミルクチーズケーキ工房のふろまあじゅといまして、こちらの方も自分たちのところで企画から販売まで一気通貫でやらさせていただいております。

こちらがですね先ほど紹介はしてないんですけど、埼玉武蔵ヒートベアーズの出資者の1人になります、ホリエモンさんがですね、プロデュースしている小麦の奴隷、こちらの方もですね、ときがわにあります、ときたまひみつきち comoriver というところで、開業を去年させていただいてちょうど、今日一周年ということでイベントの方させていただいてる次第でございます。

あと、おふろカフェ白寿の湯につきましては、こういった温泉サバ陸上養殖場としまして、閉鎖循環型といまして、水をですね極力捨てないで、なるべく過循環をさせながらですね、えさ場の育成ということで、これ多分事例が今のところない中で、一つですねチャレンジしている事業の一環でございます。

今進捗としましては、来年の5月ですね、ゴールデンウィークにですねちょっと出荷できるように、今店舗の方では、頑張って育成をしている次第でございます。

あと我々の今、地域との取り組みとしましては、各自治体さんと防災協定を結ばさせていただいております。

これすべてですね我々の直営店があるところと協定を結びまして、有事の際には、我々お風呂屋さんでもあるんですけど、ある程度一定の飲食も持っておりますので、そういったときに、被災されたお客様ですね、避難場所としてご提供するというような取り組みを各自治体様とやらさせていただいた次第です。

それと併せまして地域活性化に関する包括連携というのを結ばさせていただいております、このような形で、自治体様もそうなんですけれども、銀行様とも取り組みをさせていただいている次第でございます。

あとは店舗紹介なんですけど、ここは簡単にご紹介させていただきますけど、これはときがわにあります、昭和レトロな温泉銭湯、ここはもう、昭和をモチーフにしたお店を今、やらさせていただいております。

こちらがお風呂カフェ白寿の湯という、これが埼玉県神川町なんですけど、ほぼ川を挟んで向こう側が群馬というところに位置してるん

ですけども、発酵とかですね、先ほどご紹介させていただきましたサバをですね、料理、ご提供の方をさせていただいている店舗でございます。

熊谷にありますハレニワの湯ですね、こちらですね一昨年までですねおふるカフェ bivouac という形で、室内型のグランピングのコンセプトに特化したお店だったんですけども、もうなんかグランピングって結構一般的に周知されているというところで、去年リブランドさせていただいて、女性に特化したような格好での店舗の運営形態に今、変えさせて運営の方しております。

ここはですねおふるカフェの基幹店としまして大宮にありますおふる cafeutane になります。

こちらサウナとか、あと北欧とかですね、そういった形でフィンランドの料理だとか、あとは夜にこういったサウナと音楽を融合したイベントをやったりとか、若い世代に非常に人気のあるお店をやらさせていただいております。

あとこちらがですね埼玉県越生町にあります OPark おごせと申しまして、こちら結構ですね特殊な店舗でございます、もともとは生越町の町有財産だったものをですね、指定管理制度の下ではなくて我々に賃貸借契約をさせていただいた中での運営をさせていただいております。

こちらではもう、先ほど申し上げましたグランピングもそうなんですけども、あとはですねサウナキャビンとかですね、ちょっと今までにない宿泊のあり方をですね、ご提案をさせていただいている店舗でございます。

あとこちらですねグランピング施設なんですけども、埼玉県ときがわ町にありますコモリバと申しまして、こちらもグランピング施設でキャビンの施設を持っていて、あとおそらくここ県内で一番ですねいろんなサウナが楽しめる施設になってまして、今、ちょっとこの縦型のサウナになるんですけども、これがエストニアのサウナだったり、ちょっと多くに見えるワゴンがサウナワゴンだったり。

あとはですねこちらの埼玉県さんの、川の再生事業の一環として、一部をですね我々が管理するということで専有させていただいて、川の中にもですね、グランピングテントを立てさせていただいて、運用しておる次第です。

あとちょっとですね、関西方面になるんですけども、四日市湯守座という店舗を運営しております。

あと今年の3月からですね湯河原にですねザ旅館東京湯河原というところを運営させていただく運びとなりまして、こちら直営店としては初めて県外へ出させていただいた店舗でございます。

あと今年、これフランチャイズで関東1号店になるんですけども、千葉にかりんの湯、既存にあったお風呂屋さんを、おふるカフェ化したという店舗でございます。

付帯としましてはご存知の方もいらっしゃると思うんですけども、ザファームっていうですね、グランピング施設があるんですけども、そちらとのコラボレーションでやらさせていただいている次第です。

ちょっと前置きが長くなったんですけども、ここからですね、埼玉武蔵ヒートパアーズのご紹介の方させていただきたいと思います。

我々埼玉武蔵ヒートパアーズは、2015年に正式加盟しまして、今年で7年目が終わりました来年が8年目のシーズンとなります。初年度に関しましては五名ほどですね、プロ選手ドラフト会議に育成指名をされたチームでございます。

パアーズの経営理念としましては、先程申したように野球から文化を発信するというので、野球を軸としたボールパーク運営、エンターテインメント事業での地域文化の発信をするという命題において、203X年、ちょっと何年になるかわからないんですけども、年商30億円、あとはまたNPB、プロ野球ですね、16球団構想というのが昔からあるんですけども、その際にはしっかりとフリーに、

上げられるような球団へというふうな形で日々頑張っている次第ではございます。

まず BC リーグなんですから簡単に申し上げますと、今、全 8 チームでございます。

去年までですね 12 チームあったんですけどもいろいろコロナ禍とかもありまして、リーグ再編という格好で、今年から、北地区南地区の 8 チームでリーグ戦を戦って、今年の 9 月に全部公式戦が終了したという運びでございます。

これ、祝優勝ってあるんですけど、今年ではなくて去年の写真を利用させてもらってるんですけども、初めてですね去年、優勝させていただきまして、今年はちょっと残念ながら 3 位ということで、こういった形でですねやっぱり地域の方に愛されながらですね、一緒になって戦えた 1 年で、本当コロナ禍でできなかったんですけども、我々がやっぱり運営した初年度から、もうコロナ禍に突入ということで、その 2 年目にですね、優勝できたということは、すごい本当にファンあってのチーム運営だったなというふうに今、振り返ると感じておた次第でございます。

先程から申し上げてる通りですね我々ボールパークというのをですね、初年度から掲げておりまして、我々が今、経営母体である温泉道場で培ってきたノウハウですね、ホテルだったり、あとはレストランですね、あとバーベキュー、グランピング、あとはですね、リラクゼーションとしましてはお風呂もそうなんですけども、サウナとかですね、あとジムとか、あとはキッズスペース、ブックカフェだったり、あとは平日とかですね、選手たちが直接子供たちも教えるアカデミーだったり、こういったですね日常使いができるような、球場運営をさせていただきたいなというふうに思っておる次第でございます。

先ほどちらっと本体の温泉道場もありましたけども、ベアーズも同じような形で地域との連携協定を結ばさせていただいておりまして、今ホームとさせていただいている、熊谷を始めさいたま市、あと北本市、東松山市さんとかですね、多岐に渡って今、連携を結ばさせていただいております。

その座組の中で北本市さんなんですけども、包括連携の座組の中でこういったですね、九都県市の防災訓練、今年の 8 月 21 日からやらせていただいたところで、ベアーズの、選手はですねちょうど試合と重なってしまいまして、監督しかちょっとこちらの日には来れなかったんですけども、こちらでは暑さ対策というふうなところの中で、ベアーズの選手が、本当は来て啓発できればよかったんですけど、暑さ対策、熱中症対策というところを、啓発をさせていただいた事例でございます。

あとはですね、企業様の部分の中で今 100 社ほどですね、スポンサー様に支えられてるんですけども、その中で、こういったご存知かどうかわからないんですけども、元西武ライオンズ選手だった、GG 佐藤さんが副社長をされているトラバースという会社があるんですけども、そちらの方で冠試合をやらさせていただいたたりとか、あとは、その下ですね、ニチガスさんっていまして、プロパンガスを主にやられてる企業様なんですけども、こういったですね、ゆるキャラに、我々のユニフォーム、赤のバットを持ってもらって一緒にですね、地域を盛り上げられるようなイベントをやっていたりとかですね。

あとこういったですね、群馬の企業様なんですけども、こういった形でラッピングバスを無償で提供していただいたりとかですね、地域の方に本当に支えられながらですね、ベアーズは運営させていただいてる次第です。

あとはですねメディアの方もですね、多くの媒体の企業様に支えられておりまして、ちょうどですねこれ左上に見えるのは、埼玉新聞社さんとのワンショットで、これがきっかけで下にもありますけども、いろいろなセミナーと一緒にやらさせていただいたたりとかですね、あとは右上は、Nack5 さんなんですけども、こちらの方とも一緒に提携をさせていただいて、おそらく何か Nack5 さん聞いてらっしゃる方は、1 度は聞いたことあると思うんですけど、屋間にですね、うちの監督が、ベアーズの宣伝をさせてもらったりとか、あとは土曜日の番組内で、実際に選手がラジオ出演したりとかですね、こういった活動もさせていただいてます。

あと右下につきましては地元熊谷の立正大学様とですね、提携を組まさせていただいたりとかですね、こういった形でいろいろですね、地域に必要とされる、愛されるっていうところを、コンセプトにやらせていただいております。

今回ですねこういった形で、ウェビナーっていうふうな形式だったと思うんですけど、本当はですね実際に、皆様のお声を聞きながらですね、どうやったら何か皆様のお役立てができるのかというのをですね、実際に聞かせていただくのが一番よかったかなと思うんですけども、またですね個別に連絡を取り合いながらですね、何かお手伝いできることがあったら、いつでもご連絡をちょうだいできればと思いますので、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、以上とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。